

「奈良」研究の第一人者

——高田十郎の直筆稀観本。

な ら

——高田十郎雑記

全3巻(第1号〜第57号)

クレス出版



「奈良学」研究の泰斗——高田十郎の大冊資料の公刊成る 池田末則

いわゆる「奈良学」の歴史・地理・民俗・金石文・地名学などを実地研究、その膨大な資料集の雑記「なら」（稿本・謄写版刷・菊変型判）三五〇頁・原稿五千枚以上）の出版は、早くから要望されていたが、何分にも刊行部数僅少のため、入手困難の稀観本となっていた。

今回、日本地名学研究所所蔵の遺著の欠号については、幸い、早稲田大学、及び武蔵野美術大学両図書館の御協力を得、ここに全五十七号の完成をみるにいたった。

著者、高田十郎は明治十四年（一八八二）三月五日、兵庫県生まれ、同四十年（一九〇七）早稲田大学歴史地理科卒業後、奈良県立師範学校教諭、昭和十六年（一九四二）同校退職後、同県庁観光課の嘱託となり、県内の歴史、地理、地名文化の研究に専念、同二十七年六月十八日他界、七十二歳であった。

特に昭和九年、「奈良郷土会」を組織、毎月一回の会合で、県内の古社寺、古文書などを調査、同会は同氏の遺志を継ぎ、同六十三年まで六二五回まで続いた。その間「大和名勝案内」（大正三年）、「井上町中年代記抄」「法隆寺金石集」「大和の伝統」「随筆民話」「奈良百題」（昭和十八年）などを出版、奈良新聞の「大和随筆」連載は実に七〇〇回を算えた。

前記、雑記「なら」は大正九年八月、第一号を公刊、昭和八年八月擱筆となつてゐる。第一号の「興福寺境内の地名一覽」では約二〇〇例以上の地名につ

いて現地調査、次いで春日大社、法隆寺などの灯笼などを実測・拓影から年号の銘文・寄進者名までを克明に記録するなど、極めて詳細な調査日誌となつてゐる。

ちなみに、雑記「なら」に次いで、昭和十三年、学術機関誌「やまと」の刊行をみた。同誌は京都・東京大学関係の高橋健自・黒板勝美・天沼俊一・喜田貞吉・足立康らの諸博士が、初めて飛鳥・藤原・平城宮跡などの諸研究を発表せられ、高田十郎を筆頭に森本六爾・田村吉永・保井芳太郎ら研究者が編集責任を担当、斯界に残した業績は実に大であった。のち大和国史会（近畿日本鉄道KK編集室）の機関誌「大和志」の発刊に発展していった。

偶々、昭和十六年三月、日本地名学研究所を創設した中野文彦（京大文学部卒・「校本風葉和歌集」著者）は地名研究の必要を認め、まず奈良在住の高田十郎、永島福太郎（関西学院大学名誉教授）、池田源太（奈良教育大学名誉教授）らの協力を得て発足した。同研究所の事業は六〇年後の現在に及んでいる（「大和志」一九四二年四月号所載）。なお、高田十郎に師事した森川辰蔵、山田熊夫、乾健治ら県内の中学校長らによつて、雑記「なら」はテレビ（近鉄提供「真珠の小箱」）で何回か放映された。今も高田十郎の功績は「奈良学研究の第一人者」といつてもけつして過言ではない。

（日本地名学研究所所長・文博）

高田十郎（武田新太郎画）



（大正十五年六月末ヨリ九月初迄）

大正十五年六月廿八日（月）「オバアサン」ト、まさ子、用迄ニ大坂ニテ。午後、雨。

六月廿九日（火）半雲。奈良ノ人、竹谷正成氏ノ台座ヲ見聞談キ。

六月三十日（水）雨。妻、大坂ニテ。遂州カラ、「上ノいろ」三巻ノ三ノ巻ヲ、郡役所廢止ノ日、知人ノ出入交送、カレコト、キコエ。

七月一日（木）朝、辰市ノ家ニテ。七月二日（金）北村字真館ニ、七分身ト。

七月三日（土）午後、豊。沢田田部作君、「PHALUS KULTUS」十五号ヲ、終刊号トシテ。

七月四日（日）午前、夜ヨリ雨。朝、暴風加ハル。后、ワリツラニ不定。全日甚ク陰気。雨急滞在。

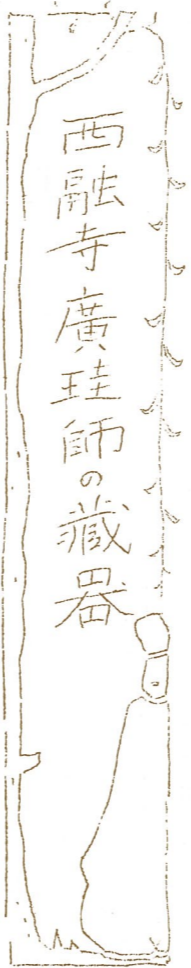
七月五日（月）曇。夕、雨。西谷滞在。コホドカラ、食慾フルハズ。今夕、ニハキ胸ス。

七月六日（火）綿里ノ家。カツテ。午後、雨。飼猫トモツガ、野猫トモツカカネテ、幾匹中ニ一匹、今日、井ノオチテ、死ニルノヲ発見。

七月七日（水）綿里ノ家。カツテ。午後、雨。綿里ノ家。高田君（二ニ）クル。夜二時ゴロ、ソノトルアラゲテ、盛ニ、ガラジル様位論ヲヤル。

七月八日（木）綿里ノ家。カツテ。午後、雨。妻ト、ソノトルアラゲテ、途ニ、二日ノ子真ヲケル。滅法界ニ恐ロシイ面ト細君ヨハル。

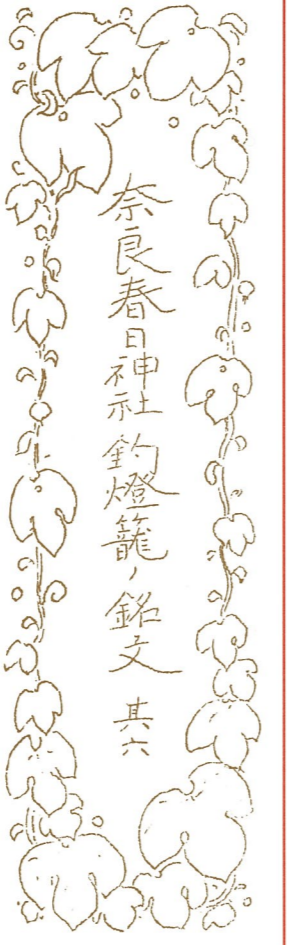
七月九日（金）綿里ノ家。カツテ。午後、雨。東京、坪井良平君カラ、コホドアツタ。其二



西融寺廣珪師の藏器

奈良、西南一里半バカリガ、生駒郡郡山町東、南半里バカリノトコロ、オナジ郡、平和村、若槻トイフ所ガ、融通念仏宗、西融寺ガツツテ、住職、平田廣珪老師ハ、本山デモ「字引」トイハル博識ノ故老トシゴロ心掛ケテ、意ヲオカセテ、珍器骨董ノ類モ、夥シイ。イツカ結分スルカラ、出カケテ、コト、ソノ地、中井君（勤）カラ、スズメテ、十年一月ノコトデ、既ニ、満三年ニモナリサウガ、コトシ、九月ノ十六日ノ日曜ニ、ヤト縁ガ、熟シテ、ハジメテ、老師ニ面晤シ、ソノ藏器ノ一部分ヲ展観スルコトガ、デキ。

浸水シテ、カネテ一人キリ、清徳グラシヨシテ居ラレ、老師ハ、コレマツ、睡眠トコロバ、ナカツタ、ト云フ。コトナ場合ニモ、サカハラズ、ワタシハ、静カニ且ツ心ノマ、半日ノ夕、モノヲ、首ナケルコトノ出来タノヲ、衷心、感謝シナケレ、ナラナイ。コトノ、訪問旅行ハ、サナカラ、絵巻物ヲミルヤウナ、変化ノ連続デアツタ。電車デ、郡山マデイッテ、カ、リ、都合ハ、ハカリニ、汽車ノステーションニ、モイト、ヨツテ、ミル。ココニ、丁度、荷ガロシサレタ子牛ガ十幾匹カ出テキテ、人ヲヒキ、バルバカリニイキリ立チサカ、引キキリナシニ、ナキタレ。ソノ、サナ、シサハ、ナントモ云ハズ、アタリノ人々ハ、比自トビカシテ、見テル。モイト、ミタ、グガ、非常ニ、珍ラシク、オモシロク思ハレタ。ステーションニ入ルト、正午ノ前ガ、コレカラ、若槻ハ、半時間モカラナイ。ソノ、シドキニ、イキアヒルノモト、シバラク、併合室デ、ハスラトミスル。ココヘ、上リ、車ガ、ク。一台ノ、俵ガ、カケルケル。立テラレ、一人ノ、婦人ガ、頗ル、オチイテ、俵賃ヲハラツテ、サツト、列車ニノリ



本稿「其五」ノ説明ノ補遺

南方熊楠氏カラ、左ノトホリ、示教ヲ得タ。大正十二年十二月十五日附テ。

奈良二三及四号、今朝着、只今拜見。（中略）前例、準ジ、廿四号燈籠ニ、関人人名ニ付、左ノ如申上ル。二六葉、大久保藤十郎母儀。大久保藤十郎は、石見守長安の長男、慶長十八年四月、長安死して後、藤十郎、七父の遺産を、其遺言通りに、安共へ領與せず。妻等、之を家康に訴へしより、長安存生中の好事露は、七月九日、藤十郎始め、長安ノ子七人、或は磔し、或は斬らる。と、古今武家盛衰記に見ゆ。去レ、藤十郎母儀トイフは、長安の正妻也。廿二葉、「織田左衛門佐」ハ、信長の弟、大坂城の謀主ト見せて、徳川方ニ裏切りした有楽齋長

益の四男長政、字は莊藏、初め家康に近仕す。慶長十年に叙爵して、丹後守と称し、父ノ封邑大和槻津の田一万石を割き、賜はる。寛永二年、左衛門佐と改む。と、野史に見ゆ。「織田系図」には、此人従五位下、和州戒重の領主と有る。南朝の忠臣に、戒重良因といふ人あり。戒重といふ所、今は所なりや、村ナリや。紀州人に知ル者なし。右ニ示サレタ「戒重」ハ、イマ、磯城郡城島村ノ大字ニアル「カイヂエウ」（戒重）ト考ヘラレタ。奈良カラ南、約五里、桜井町ノ西、ツラナツト小サナ村落デ、現ニ城址トイハル所ガ、畑地ニナラ、ノコツテ、長政有、永母、四男デ、戒重一万石、ソノ弟、尚長ハ、五男デ、イマ、磯城郡柳本町ニ、見柳本城一万石ニ封セラレタガ、長政ノ家ハ、イマ、イマノ、全郡織田村、サニウツタ。芝村、桜井ノ北、三輪所ノ北、柳本

なら —— 高田十郎雑記

全3巻 (第1号~第57号)、池田末則 解説

① 第1号 (大正9年8月)~第20号 (大正12年8月)

② 第21号 (大正12年9月)~第40号 (大正15年2月)

③ 第41号 (大正15年3月)~第57号 (昭和8年10月)

A5判(原本90%縮小) / 上製函入 / クロス装

揃定価48,000円(税別) 平成16年3月刊行

ISBN4-87733-206-5(セット)

地名研究資料集 全五巻

池田 末則・鏡味 明克・江端真樹子 編集・解説

第一巻	日本	定価20,000円(税別)	ISBN4-87733-184-0
第二巻	大和国 一	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-185-9
第三巻	大和国 二	定価14,000円(税別)	ISBN4-87733-186-7
第四巻	大和名所図会ほか	定価21,000円(税別)	ISBN4-87733-187-5
第五巻	万葉集	定価22,000円(税別)	ISBN4-87733-188-3

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-183-2(セット) C3325

第一巻 日本

日本州名解(全)

郡名考(全)

信濃地名考(上・中・下巻)

国名風土記(全)

地名字音転用例(全)

諸国名義考(上・下巻)

国郡訓義(全)

大日本国勅名起原(全)

皇国郡名志(上・下巻)

市郡制法

日本諸国名義考(全)

阿部 完堂

青木 敦

吉沢 好謙

(原著者不明)

本居 宣長

藤原 彦麻呂

山崎 直高

橘 隆盛

桂 華園

堺 県 庁

秋鹿 見二

嘉永五年(一八五二)

明和元年(一七六四)

安政二年(一七七三)

宝暦四年(一七五四)

寛政十二年(一八〇〇)

文化六年(一八〇九)

明治四年(一八七二)

寛政九年(一七九七)

明治四年(一八七二)

明治五年(一八七二)

明治三十一年(一八九八)

第二巻 大和国 一

大和国雑役免坪付帳・東諸郡

大和巡りの記(全)

大和志(「五畿内志」大和)

高市郡(飛鳥)古跡略考

大和名所和歌集

道の幸(上・中・下巻)

傍訓大和村名(全)

明治十四年大阪府小字調査書(吉野郡丹生村)

大和名所図会(全七冊)

西国名所図会(大和国、七・八・九・十冊)

奈良名所絵巻

南京八景

南都八景

冠辞考(全十冊)

南留別志(全五冊)

万葉用字格(全)

興福寺資財帳 延久二年(一〇七〇)

北浦定政校註写 嘉永五年(一八五二)

貝原 益軒 元禄九年(一六九六)

並河 永 享保二十一年(一七三六)

長尾 宗珉 宝暦元年(一七五二)

屋代 弘賢 宝暦年間(一七五一)

青木 英治 寛政四年(一七九二)

明治十一年(一八七八)

明治十四年(一八八二)

寛政三年(一七九二)

寛政五年(一七九三)

宝永二年(一七〇五)

村井古道編・破笠画 三巻

東大寺真敬親王筆 一卷

有栖川宮熾仁親王他筆 一卷

賀茂 真淵 宝暦七年(一七五七)

荻生 徂徠 文化九年(一八一二)

春 登 文化十五年(一八一八)



株式会社 クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5

☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>